



新年のご挨拶



病院長 小池 和彦

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。
今年（令和7年、2025年）は「へび年」ですが、十干が「乙（きのと）」、十二支が「巳（み）」の年にあたるので、干支（えと）は「乙巳（きのと・み）」だそうです。乙巳には、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」といった意味合いがあるとも言われています。COVID-19によって停滞を余儀なくされてきた世の中が、その呪縛から解き放たれて、再生し発展して行くことを示している様です。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について、昨年を少しだけ振り返ってみますと、東京都の定点医療機関当たりの患者報告数は1-2月と7月に2つのピークが見られました。そのピーク時には、当院の救急受付での発熱外来受診者（コロナ検査希望）もかなりの数に上りました。それでも、11月末には定点当たり報告数は0.99人と落ち着いた状態になっています。しかし、2024年を通じて、当院におけるコロナ陽性入院患者はゼロにはなりませんでしたが、何より、高齢者では重症になる方も多く、油断できない状況は続いています。また、現在、通勤電車の中でもマスクをしている人は極少数になっていますが、病院内では職員のマスク着用が義務付けられています。皆様にも、受診時には引き続きマスクの着用をお願い申し上げる次第です。

さて、この機会に、世田谷区との連携協定についてお伝えしておきたいと存じます。2024年7月26日に、当院の母体である公立学校共済組合は、世田谷区と包括連携協定を締結致しました。関東中央病院は、現地建替えに向け、基本構想の作成に着手しているところです。また、病院に隣接する世田谷区立上用賀公園についても、同時期に防災拠点となる体育館の整備を含む拡張計画が推進されることとなっています。これを機に、関東中央病院と世田谷区のより一層の連携強化を目指し、公立学校共済組合は世田谷区と包括連携協定を締結致しました。

その目的は、双方の包括的な連携のもと相互に協力することにより、関東中央病院を中心として、災害時の協力体制や地域医療の充実および教職員への支援等を推進することです。目的の達成のため、関東中央病院を活用し、次に掲げる分野について連携・協力します。災害時の協力にも、更に力を入れて行こうということになります。

- (1) 周辺医療機関等との連携体制の構築に向けた効果的な取組み
- (2) 地域医療に関する課題解決に向けた取組み
- (3) 災害時医療救護体制の強化に関すること
- (4) 災害時を含む区が設置する近隣の公園等施設との連携に関すること
- (5) 区民の健康増進（メンタルヘルスを含む）に関すること
- (6) 教職員のメンタルヘルスをはじめとする健康増進等に資する支援に関すること
- (7) その他目的に沿い両者が必要と認める事項

期待される主な効果・取組みとしては、災害対策に向けた協力体制の強化、区立学校教員のメンタルヘルス対策の推進、地域医療に関する課題解決に向けた取組みなどが挙げられます。

今年こそは、ポスト・コロナ時代における生活、仕事、イベント、社会の在り方、医療の在り方などを考え、あらゆる健康障害を減らしていく努力をして参りましょう。